

令和3年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立仲六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 作図に取り組む時間を十分に確保したり、身の回りの具体的な形を対象としたりしたことで、図形に対する理解が深まった。

(2) 課題

- ・ ベーシックドリルを活用し、分からないところに立ち戻って学習させる必要がある。
- ・ 検算をすることを徹底していく必要がある。
- ・ 数直線を用いて、小数や分数についての理解を深める必要がある。



2 大田区学習効果測定の結果について

(1) 達成率（同一集団の経年変化）

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
第4学年	・ 目標値をやや下回る。 「たし算・引き算」に課題がある。		
第5学年	・ 目標値をやや下回る。 「小数」「変わり方調べ」に課題がある。	・ 目標値をやや上回るが、 「数と計算」に課題がある。	
第6学年	・ 目標値をわずかに下回る。 「整数のなかま分け」「割合」に課題がある。	・ 目標値をやや上回るが、 「計算のきまり・変わり方調べ」に課題がある。	・ 目標値をやや上回るが、 「長さ・重さ」に課題がある。

(2) 令和3年度の結果分析（観点別）

・ 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 「たし算・引き算」の繰り返し3回の計算が課題である。	・ 「かけ算」の記述問題を苦手としている。	・ 「かけ算」の記述問題を苦手としている。

・ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 「億と兆、がい数の表し方」「分数」「わり算」を苦手とする（5年） ・ 「整数のなかま分け」「小数の計算」を苦手とする。（6年）	・ 「簡単な場合についての割合」「折れ線グラフと表」を苦手とする（5年） ・ 「多角形と円・合同」「割合」を苦手とする。（6年）	・ 「分数」「折れ線グラフと表」を苦手とする（5年） ・ 「多角形と円・合同」「割合」を苦手とする。（6年）

3 授業改善のポイント

・低学年



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別プリントを活用しながら、スモールステップで学習を進め、確実に学習が身につくようにさせる。(1年) 毎時間学習プリントなどを活用し、数量や図形についての技能の定着を図る。 直線をひくという学習活動を反復して行い、技能が正確に身に付くようにする。 具体物を用意し、視覚的に理解できるように教具の工夫をしたり、具体物を操作する活動場面を多く設定したりして、数量や図形の理解を深めるようにする。 少人数クラス編成を工夫する。(2年) 	<ul style="list-style-type: none"> 考えた過程を説明する場を設けたり友達の考えを聴くときには、自分の考えと同じ点、違う点はどこ改識させたりするなど、考えを伝え合い、表現する活動を増やしていく。(1年) 考え方を伝え合い、表現する活動を増やしていく。 本時のキーワードをカードにして提示し、文章題では、意識化を図る。 絵や図を書かせて、問題の意味理解を図れるような指導をしていく。(2年) 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組めるように、具体物や半具体物など、視覚的に分かりやすい教材を用意する。(1年) 苦手な児童も意欲的に取り組めるように、習熟度別プリントを利用し、スモールステップで学習を進める。 確かめの時間、振り返りの時間を充実させる。 ICTの活用により、知識・理解、技能の習得、反復練習も意欲をもって取り組めるようにする。(2年)

・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算力を高め、文章題の立式ができるようにスキルやプリントを活用し、繰り返し学習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考え方を説明したり、教具の使い方を教え合ったりするなど、互いに学び合う活動を多く取り入れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度の段階に応じて、授業の始めに単元の系統にあった既習事項の復習をし、知識を確かなものにする。

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ベーシックドリルを活用し、分からないところに立ちもどって学習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数とその表現や計算の意味に着目し、目的に応じて多様な表現方法(線分図・数直線、図等)を用いながら、問題を考える技能や説明する力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数への意欲を高めるために、習熟度別 少人数指導を生かし、毎時間、既習事項の確認を確実にし、スモールステップで指導をしていく。